

なか ぞ かしはし ちょう  
中 曾 司 町

## 弥生時代の中心的集落

中曾司町の地下一帯に、弥生時代前期から後期まで続く「中曾司遺跡」のあったことが、県立橿原考古学研究所や市教育委員会の発掘調査で分かっています。橿原地域の平野部に最も早く生まれた弥生時代の集落跡です。

集落の南に接して「曾我遺跡」を分村として弥生時代中期に生み、さらに南側で「土橋遺跡」や「曲川遺跡」を弥生時代の後期に生み出したようで、弥生時代を通じた地域集落群の中心的な村だったことが判明しています。

「中曾司荘」という荘園（領地）名で、南北朝時代の至徳三（一三八六）年六月九日付け古文書（岡本文書）に、中曾司の地名が初めて登場します。時を経て中曾司村となった江戸時代は、お茶の製造と喫茶の風習が盛ん（高取藩風俗問答状）でした。幕末に寺子屋ができ明治七年に小学校が開校（日本教育史資料）しています。同一五年ごろ人口が三八二人で、牛が三頭に田四一町余りと畑一〇町の静かな農村（町村誌集）でした。

明治二二年に真菅村の大字となったあと昭和三年に、橿原市へ編入され「橿原市中曾司町」が発足します。残念ながら地名の生まれた詳細は、いまのところ判然としません。